

ガード・グレイル

【概要】

年齢：120歳（人間のアラサーくらい）

性別：男性

影に溶け込むヘルハウンドの青年。ダウンナーな雰囲気でもこそあるが面倒見はいい。自分以外が未成年と身元不明で構成されたメンツなため、唯一のまともな大人枠を務めている。苦勞人。

【求める声質】

- ・ハスキー
- ・唸り・遠吠えができる
- ・色気のオンオフができる

【性格・声のイメージ】

性格：いつも気怠げで自身を卑下する傾向がある。しかし、同時に深い愛情を内に秘めている。何かと未成年たちの世話を焼きがち。表舞台に立つオラシオンの影として、汚い部分を背負う。

声：気怠げでやる気があまり感じられない。ノってくと饒舌になる。

【サンプルテキスト】

「ガード・グレイルだ。個人的な理由でオラシオンたちと旅をしている。いくら俺が凡百の1匹でしか無いとしても、俺を唆してオヒメサマに近づこうなんて考えない方がいい。犬は犬でも、俺は忠犬だからなア。グルル（唸り）」

（やれやれと面倒を見る）

「アーン（遠吠え）、チビどもメシだぞー。あー……ったく、泥だらけじゃねえか。しゃーねえ、先に風呂入ってこい。んで、腹減っててもちゃんと毛は乾かすように。風邪引くからな」

（落ち着いた懇願）

「俺はお前らみたいな大層な夢なんて無えけどよ、お前の行く先に着いていきたいと思ってる。こんなこと、虫が良すぎると思うが……もう一度、もう一度俺も連れて行って欲しい」



【デザイン】